

---

# 明日への道しるべ

荒木新二

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

明日への道しるべ

### 【Nコード】

N6041Z

### 【作者名】

荒木新一

### 【あらすじ】

ボクはもう“あの人”に会えない。

だから、ボクがみんなを守れるだけ強くなろう。

“あの人”はもう、そばにいないのだから……

## 〈一章〉新しい学校

ボクは今、幸せだと思います。

優しいお父さんにお母さんと頼りになるお兄ちゃん。  
とても親切なクラスメートたち。

他にも色々あるけれど一つ一つ言っていたら止まらなくなっちゃ  
うぐらい、ボクは幸せなんだ

あの人がいたから……

けれど、もうあの人はいない

あの人とはこの春から別の高校になる

遙か彼方への存在になってしまう

だからボクは幸せ者のままじゃダメなんだ

あの人みたいに、みんなを守れるだけの男にならなきゃいけない  
んだ

あの人みたいに、

みんなの笑顔を守れるだけの男にならなきゃいけないんだ……

⋮  
⋮  
⋮

ピピピピピピピ

「うーん、もう朝か……」

目覚ましのアラーム音が響き渡り、ボクの意識は覚醒する。

30畳もある広い畳の部屋にある布団からもぞもぞと起き上がり時計を見てみた。

今現在の時間は7時5分。

うん、早すぎず遅すぎないいい時間帯だ。

「ユキー、ご飯よー」

「はい」

とりあえず、今は朝ご飯を食べに行こう。  
顔を洗うのは後でいいや。

「ユキー、早くしなさい」

「分かってるよー」

早く行かないと朝ご飯がなくなりそうだ。

ああ、そうそう。自己紹介しなきゃだね。

ボクの名前は清涼水優姫。きよすみずゆうつき

今年から高校生になるフツウの男の子だよ。

まあ、昔はよく名前や名字でからかわれたりしたけどね……

とりあえず、そんな事は割愛して、

今、ボクはご飯も食べ終わり、素早く新しい学校生活の象徴たるある私立の詰め襟を着込んで家を出たところだ。

外にはボク以外にもたくさんの学生たちがいる。

多分、ボクたちと同じ新入生たちだろう。

そしてその新入生を祝うかのように、辺りの街頭付近の桜の木から美しい桜の花びらが舞い落ちている。

本当に、綺麗だな……

「よう、ユキ。いつも通りなよなよしてんじゃねーよ」

美しい風景から一転して、不覚にもボクは少し気分が落ち込んでしまった。

とりあえずボクは振り返ってその人に挨拶をする。

「ああ、おはよう美奈ちゃん」

ボクの後ろにいたのは中学の時の同級生、あまぞらみな天空美奈ちゃんである。

彼女とは中学からこの様な事をいわれ続けているから慣れたつもりだったが……

どうやらちつともなれていないみたいだ。

しかも、

「お前はもう少し“オレ”みたいに男らしくできねーのか？」

不思議な顔をしてボクに説教をする彼女は言葉通り、『男らしい』女の子だ。

しかもケンカは男女トータルで最強レベルの超人的身体能力。  
一つ目の男らしさと二人目の強さを合わせればどうなるか想像つ  
くであろう。

そう、彼女は『準スケバン』なのである。

とはいっても別に怒らせなければ彼女はフツウに目つきの悪いカ  
ッコいい女子だと思うけど……

「オイ、何ぼうつとしてるんだよ？」

美奈ちゃんがボクの顔を覗き込むにして顔を伺う。

ボクはそれを、「何でもない」とだけ言って歩き始める。

どうでもいい事だけれども、美奈ちゃんは僕より遥かに背が高い。

「ふーん、まあいつか。」

美奈ちゃんはそう言いながらボクの隣を歩く。

……ボクとしては、美奈ちゃんが隣にいるとより自分が小さく見  
られるから勘弁してほしいぐらいだ。

そんな風に少し落ち込んでいたら美奈ちゃんがボクに顔を再び近  
づけてきた。

「なあ、ユキ。アイツ……元気にやってるかな？」

「……」

美奈ちゃんの言うアイツとは多分、ボクの親友である、あの人の  
事であろう。

ボクとしては無言を貫きたかったが、あえて答えてみた。

「大丈夫だよ、きつとね。」

ボクは舌を出して小悪魔風に言ってみた。  
すると美奈ちゃんは舌打ちを一つしてボクの頭を上から手荒くわしゃわしゃと撫で始めた。

「なっ、なにするんですか!?!」

必死に美奈ちゃんの手を振り払いながらボクは彼女に食ってかかる。

対する彼女は悪い目つきのままボクを見下ろして、「ふん、ガキが」とつまらなさそうに言っていた。

けれど、ボクには今の一言は辛かった。

具体的に言うと、天下の往来で地面に手をつくいわゆるおろずポーズになるぐらいに。

「おいおい、なに恥ずかしい事してんだよユキ?」

「誰のせいだと思ってるんですか……」

とりあえずさり気なく差し出された美奈ちゃんの右手を引いて立ち上がり再び歩き出す。

もうすぐ新しい学校につきそつだ。

……あつ、忘れてた。

「美奈ちゃん」

「何だ、ユキ？」

ボクを見下ろしながら美奈ちゃんは静かに続きを待つ。  
そんな彼女にボクは一言で言いたいことを伝えた。

「また三年間よろしくね」

彼女は一瞬驚いたような顔を見せたがすぐにいつもの悪い目つき  
に変わり、彼女も言った。

「ああ、こちらこそよろしくな」

そうしてボクたちは今、『私立凜陽学院』の校門をくぐった。

いよいよボクは高校生になるんだ。

“あの人”のいない新しい学校生活が、始まるうとしていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6041z/>

---

明日への道しるべ

2011年12月20日02時52分発行